

特別企画

「内憂外患」

ニッポンの船出

牧原出／西田実仁／中満泉／鎌田實

特別インタビュー

民族の対立を超えて

音楽で二つになれた

奇跡のコンサート

柳澤寿男

# 潮

# 12

THE USHIO [うしお]  
December, 2024

1961年11月22日第3種郵便物承認  
2024年12月1日発行  
毎月1回1日発行 通巻790号  
<https://www.usio.co.jp>



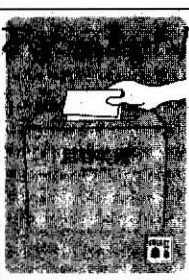
小説家を目指すわたしは、日系アメリカ人のパトナーとともに渡米し、夢の実現に向けて新生活を始めた翌年、「運命の猫」と出会う。わたしは念願の新人賞を受賞するものの一向に芽が出ず、彼もまた仕事で大きな挫折を味わうなど順風満帆な日々ではなかったが、二人の下積み時代を支えたのは間違いなく猫だった。すべてが猫との幸福な思い出に収斂していく、猫愛あふれる自伝的物語。



「わたしの猫、永遠」

小手鞠るい／潮文庫／定価一〇四五円

子育てを終え定年退職を迎えた霧島郁子は、東京郊外から夫の田舎に移住し、のんびり暮らそうと考えていたが、待っていたのは退屈な日々と、時代遅れの男尊女卑思想が蔓延する地方の現実だった。銀髪の女性市議・市川ミサオに見込まれた郁子は、後継者として市議会議員に立候補することになる。世代を超えた女性たちの交流が一人ひとりの意識を変えてゆく、アクチュアルな問題を描いた小説。



垣谷美雨／講談社文庫／定価八六九円

江戸から昭和まで、数奇な運命をたどった書物と携わった人の知られざるエピソードを紹介。ほとんど知られていない本ばかりだが、書物の陰にドラマあり。五六編の掌小説の趣さあるのは、作家であり古書店店主でもあった著者の好奇心と探求心と文章力の賜物だろう。高倉健のご先祖の旅日記から始まり、いきなり出久根ワールドに引き込まれる。南伸坊のイラストが秀逸。文庫オリジナル。



「本の身の上ばなし」

出久根達郎／著 南伸坊／イラスト ちくま文庫／定価九六八円

「一人はイヤ、でも人と一緒は疲れる」と感じている人は多いだろう。本書は心理学の知見からこのような生きづらさのメカニズムに迫り、過剰な嫉妬で関係を悪化させるケースやダメ人間に執着してしまうケースなど、心の奥に潜む「見捨てられ不安」がもたらす行動パターンを示す。理想的な人間関係を築く鍵は、孤独と向き合う時間を楽しみ、安定感のある魅力的な人間になることなのである。



「孤独を楽しめる人こそ、人生うまくいく！」

榎本博明／知的生きかた文庫／定価八四七円

ドイツのケルンで両親と何不自由なく暮らしていたユダヤ人の少年がホロコーストに巻き込まれ、家や家族を失いながら三つの収容所を生き延びた奇跡のノンフィクション。ナチ党による想像を絶する身体的虐待に屈せず、あらゆる知恵を絞り機転を利かせ、解放されるその日まで「人間」としての尊厳を失わなかった。終章、故郷で行ったスピーチで語る「寛容」という言葉に心が揺さぶられる。



「アウシュヴィッツの小さな被害者」

ヘンリー・オースター／著 大沢章子／翻訳 新潮社／定価一三三〇円

地方の農業・漁業の現場で活躍する女性を追ったレポート。新規就農の支援研修から出発し、レタスの大規模農家となった塚本さんは、安定価格で流通に乗せ、着実な利益を上げる。牧場でチーズとジェラートの販売店を経営する馬上さんは、近隣や子どもたちとの交流も行い、事業を発展。観光への展開も構想する。農畜水産物への愛情と新たな視点から創意工夫を凝らす姿に強い触発を受ける。



「ニッポンはおいしい！」

金丸弘美／理工図書／定価二〇九〇円

見込み捜査と捏造証拠による「戦後最大の冤罪事件」で死刑囚のままだった袴田巖さんは、今年九月ついに再審無罪を勝ち取った。本書は、八十八歳の袴田巖さんを支えた九十一歳の姉ひで子さんを柱に、弁護団や支援者の五八年にわたる闘いを追った渾身のルポ。数々の冤罪事件を取材した著者が、「人権そして名誉」とともに、「常識」を取り戻す闘いでもあった」と総括する言はあまりに重い。



「袴田巖と世界一の姉」

栗野仁雄／花伝社／定価一九八〇円

地球科学者としての著者や国際会議での講演経験などで日常的に英語を駆使する著者が本書で提供する英語学習法は、意外な効果シンブルが持つ総合的だ。目的意識とその達成のための戦略を重要視する本書の学習法には、英語習得に限らず人生力般における目標達成の要諦が含まれている。「学ぶことは楽しい」「外国語を学ぶことはコミユニケーション力を磨くこと」と目を開かれる一冊だ。



「体系的英語習得術」

鎌田浩毅／ちくま新書／定価九六八円

# 今月の新刊

# 今月の文庫